

聴覚障害者防災マニュアル



社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会
災害対策委員会

基本は「自分の身は自分で守る」

いつ起こるかわからない！！だから今から自分で出来る準備をする



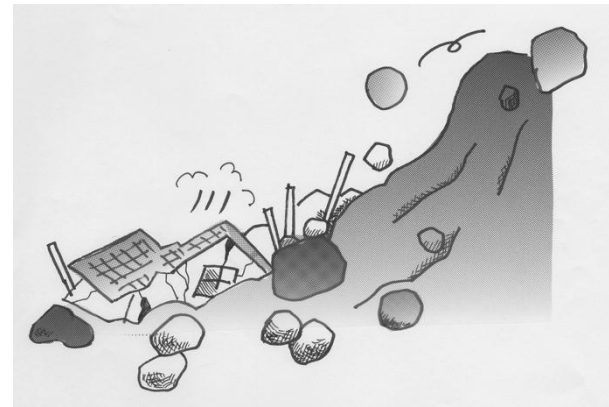
地震



洪水



台風



地崩れ

1. 非常持ち出し品を備えておきましょう





携帯用充電器(手動)があれば便利！

いつでも避難出来る準備をしましょう。



笛(SOSの時助けを呼ぶため)



お
か
ね

公衆電話などに便利

非常持ち出しチェックリストを
活用しましょう！！

2. 家の中の安全対策



【わが家をチェックするときのポイント】

- ①寝室や子供部屋、お年寄りの部屋に家具をたくさんおいていないか？
- ②電灯、絵が入った額、吊っている棚のものが落ちてこないか？
- ③食器棚の中のガラス製品が飛び出してこないか？
- ④2段3段に重なっている家具が地震の揺れで倒れてこないか？
- ⑤テレビや落下したら危ないものを、家具の上や高いところに乘せていないか？
- ⑥バルコニー、ベランダなどに落下しやすい植木鉢や物を置いていないか？
- ⑦コンロなど火元の付近に燃えやすいものを置いていないか？
- ⑧玄関など外へ避難する経路が、家具の転倒で通れなくなったりしないか？

3. 日頃から近所付き合いをする



- ①積極的にあいさつをしましょう。
- ②聞こえないことを知ってもらいましょう。
- ③町内会に積極的に入りましょう。
- ④緊急の避難命令など、情報を知らせてもらえる方法を決めておきましょう。



情報がもらえるよう、日頃から交流が大切です！！

4. 家族で避難場所など話し合う



家族の役割も決めましょう。



防災マップを必ずもらっておきましょう。
避難場所を決めましょう。
避難場所までの危ないところもチェックしましょう。

避難する時の基本行動

自分勝手に行動しない！！
指示に従って避難する！！



障害者やお年寄りを助ける！！



歩いて避難する！！



5. 地震が発生したら

- ①まずは身を守る。慌てないことです。
本棚、ガラスから離れる。机の下へ



- ③避難する時は、留守家族へ伝言を残すように。
例)『〇〇小学校に避難しています』



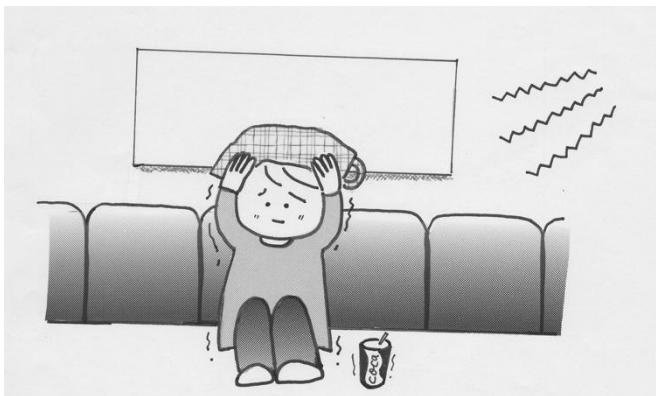
- ②揺れが治まったら、火の始末、電気・ガスの確認を！！
逃げるためのドア・出口を確保するため、開けておく！！



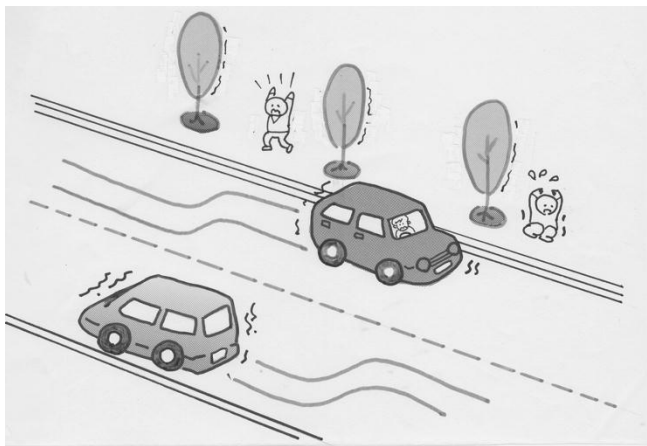
- ④外出する時は、自動販売機、ガラスやブロックから
離れるなど、気をつける。



- ⑤映画館、ホールなどでは、かばんなどを頭に乘せて、身を守りましょう。



- ⑥運転中、車をゆっくり左に寄せてエンジンを切っておきます。



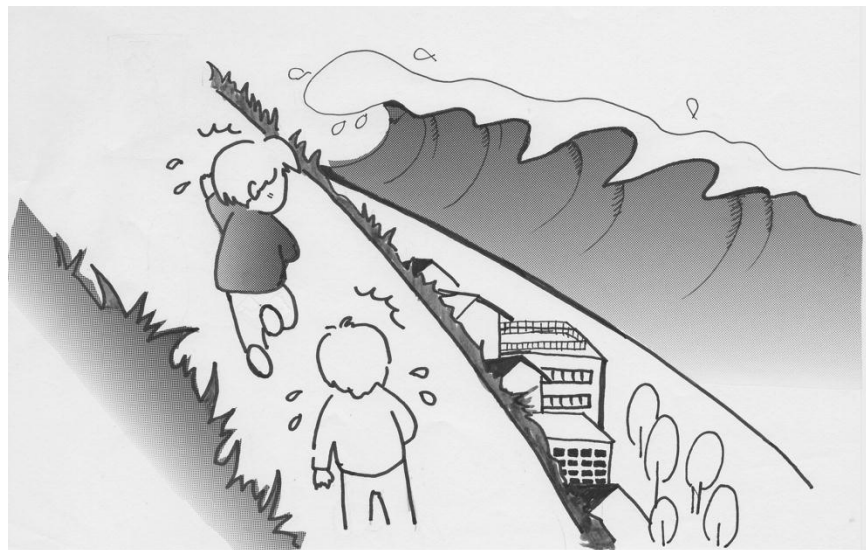
津波から身を守る！！

強い揺れ・長い時間の揺れ・津波警報の発表



津波から身を守る＝『逃げる』

高い場所へ、逃げること！！



6. 台風防災対策

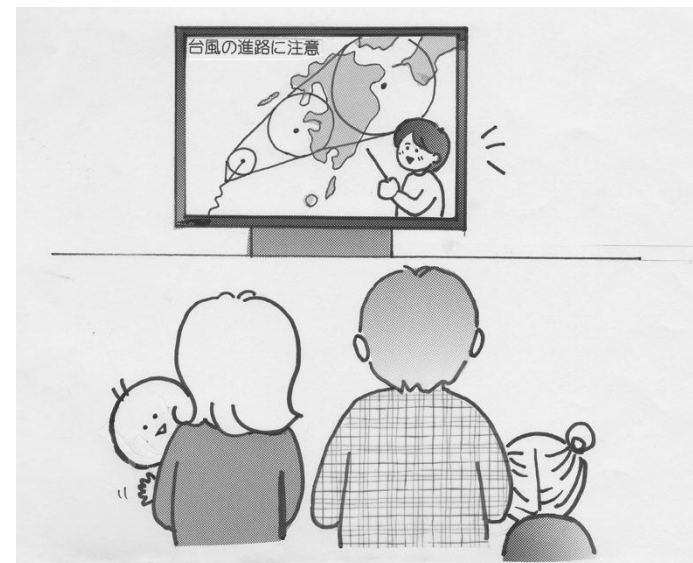
台風でもっとも怖いのは強風です。家の周辺やいろいろな小物の固定や屋内への収納をしましょう。



- ① 屋根⇒瓦のひび割れ、ずれ、はがれの確認
- ② ベランダ⇒鉢植えや物干し竿等は飛散するので、屋内へ収納
- ③ 危険物等⇒プロパンガスの固定、商店等では看板のぐらつき、家の外周を確認し、飛散物は固定若しくは屋内に収納
- ④ 雨どい・雨戸⇒雨どいに落ち葉が詰まっているか。雨戸にガタツキはないか。
- ⑤ 外壁⇒モルタルの壁に亀裂はないか。板壁がはがれていないか。
- ⑥ 窓ガラス⇒ひび割れ、窓枠のガタツキ、強風による飛来物対策
- ⑦ 屋内⇒停電の備え（懐中電灯等）、避難の備え（非常持出品等）
浸水の備え（家財道具等を高い場所へ）

大雨や台風が近づいてきたら、早めの安全対策が必要です。

テレビなどの気象情報をよく見る。
外出先から早く帰宅し、家族全員と連絡を取り合う。
危険な土地では、いつも避難できる準備を。
停電に備え、懐中電灯、ロウソク、ラジオを用意。
携帯用充電器を用意する。
風で倒れたり飛ばされないように物を固定。
飲料水・食料を、3日分ほど確保する。
非常持出品を準備する。



具体的な作業は

例えば

雨戸や窓の補強、ガラスのガード。
ベランダや家の周り、物干し、犬小屋、鳥小屋など、いろいろな小物の固定確認・収納。
農薬など「危険物」の流出・漏出防止。
ラジオ・懐中電灯の予備電池の用意。
崖、傾斜地、造成地等では、外の状況変化に注意。

7. 集中豪雨・洪水の防災対策

■集中豪雨とは

短時間の内に狭い地域に集中して降る大雨を集中豪雨と呼んでいます。
非常に激しい雨が何時間も同じ場所に降り続くと、大きな災害となります。
集中豪雨が起きたときは、素早く行動することが大切であり、
自らの身を守るため、日頃からの準備が重要となります。

■どのようなときに発生するのか

- 日本付近に前線が停滞しているとき(特に梅雨の終わり頃)
- 台風が日本へ近づいているときや上陸しているとき
- 大気的不安定な状態が続き、次々と雷雲が発生するとき

■集中豪雨が起きると

- 河川が急に増水したり、はん濫することがあります。
- 家屋が浸水したり、道路が冠水することがあります。
- 土砂崩れや崖崩れが発生することがあります。
- 地下街や地下室へ水が流れ込むことがあります。

■日頃からの集中豪雨への備え

- 自分が住んでいる地域で、過去に水害や土砂災害の被害の有無を確認しましょう。
- 避難するときの避難経路や避難所を事前に確認しておくことが重要です。
(浸水想定避難図で浸水すると予想される地域や深さなどが確認できます。)
- 気象情報に注意し、大雨警報や洪水警報が発表されたら避難の準備をして下さい。

雨の降り方にご注意ください

大量の雨が降ると河川の水量が急激に増え洪水などの災害が発生する確率が高くなります。

早めに安全な避難場所へ向かうためにも、日頃から雨の降り方に注意しましょう。

1時間に30～50mmの雨

激しい雨



バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、崖崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。

1時間に10～20mmの雨

やや強い雨



地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

1時間に50～80mmの雨

非常に激しい雨



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほどの雨。中小の河川は氾らんし、水害発生の可能性が高まります。

1時間に20～30mmの雨

強い雨



土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、小さな河川なら氾らんやがけ崩れの心配もあります。

1時間に80mm以上の雨

猛烈な雨



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。大雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。避難勧告や避難指示等が出る場合があります。

洪水とは

洪水とは、豪雨によって河川の水量が急激に増加し、異常な流量になることです。また、反対面の地図には表現されていませんが、豪雨による浸水現象には、河川からのはん濫だけでなく、土地が低い所では、排水不良等から発生することもあるので注意しましょう。

◆外水はん濫



水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなると堤防の一部が崩れ始めます。



大雨や雪解けによって、川の水量が増え、水かさが増え始めます。



堤防の崩れた場所を通して、勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかります。

洪水に関する防災情報

◆河川水位における危険度レベルの設定と発表される防災情報の名称



危険度レベルによる 住民、自治体 に求める行動

危険度レベル5	逃げ遅れた住民の救援などを行います。
危険度レベル4	住民は、避難を完了します。
危険度レベル3	住民は、避難を判断する段階です。速やかに行動しましょう。自治体は、避難勧告等の発令を判断する段階です。
危険度レベル2	住民は、はん濫に関する情報に注意が必要です。自治体は、避難準備情報の発令を判断する段階です。水防団は、出動する段階です。
危険度レベル1	住民は、テレビやラジオ、インターネットなどの情報に注意しましょう。水防団は、待機を行う段階です。

洪水に関する情報は、降水量や河川の水位を参考に発表されます。パソコンや携帯電話といったインターネット接続環境があれば、この水位情報を直接見ることもできます。

熊本県統合型防災情報システム <http://www.bousai.pref.kumamoto.jp>